

令和6年2月29日
発行 さいたま市PTA協議会
編集 広報情報委員会
事務局 さいたま市大宮区吉敷町1-124-1
大宮区役所4F
TEL 048-647-4401
印刷 株式会社エース広告

いじめ防止スローガン
みんなで子育て よく見て、よく聞き、よく話そう!
みんまで子育て よく見て、よく聞き、よく話そう!
見逃しません、子どもの小さな変化
ためらいません、子どもとの対話
連携します、家庭・学校・地域

私たちの使命と未来(あした)のために

～子どもたちのために つないでいこうPTA活動～

第55回日本PTA 関東ブロック研修大会 千葉大会 「Re:○○～ちば発 明日につながるPTAのカタチ」

令和5年10月28日、29日、関東ブロックPTA協議会に所属する小中学校の保護者と教職員総勢1200名が参加する中、2日間にわたり7分科会に分かれ、各会場にて様々な研究発表が行われた。再び、繰り返しなどの意味を持つ単語が多い「Re」から始まるキーワードをもとに、各地域のPTA活動の紹介や、新しい視点での取り組みを紹介する。1日目は、さいたま市PTA協議会に所属する各校の会長が参加し、第1分科会・第3分科会・第5分科会の講演・研究発表を聞いた。

第1分科会のテーマは、「Refresh」楽しもう○○のカタチ。講師は、落語家の林家うん平師匠で、自身の幼少期の経験から、子どもを信じて見守っていくことの大切さにより子どもへの自信につながり、親子の絆を深めていくことが強い人間を作り上げることができると感じた。

続いて、研究発表校①藤岡市立鬼石中学校の、PTAと地域が連携、協力しながら自然を生かす地域ならではの子どもたちの成長を見守る活動の発表。②千葉市立鶴沢小学校の、コロナ禍からヒントを得たオンライン配信事業の実例など、研究テーマである楽しんでPTA活動を行う姿勢に様々なヒントをもらった。

第3分科会のテーマは「Release」発信しよう○○のカタチ。企業からは、各校PTAで導入も多いと思われるLINE WORKSの活用において、PTA活動をラクにするコツについての説明。

続いて、研究発表校①道志村立道志中学校の、小規模校ならではの学校とPTA連携の提案。②流山市立南流山小学校の、全PTA会員の8割が利用しているLINE WORKS



等を活用したPTAの活性化についての発表。③相模原市立中野中学校の、子どもたちの豊かな心と将来のために合唱曲を独自で作詞作曲をした実例。3校それぞれのPTAからの発信に改めて気付かされたことが多かった第3分科会となった。

第5分科会のテーマは「Reconnect」高め合おう○○のカタチ。研究発表校①厚木市立小中学校PTA連絡協議会の、地域(community)を巻き込むCPTAという新しいPTAのカタチについて発表。②那珂川町立馬頭中学校の、ICT機器の効果的な活用の実例の発表。③さいたま市立大谷小学校保護者と教職員の会の、子どもも大人も楽しんで高め合うPTA活動の実例を多数発表。各校の規模に合わせたそれぞれのPTAのカタチを見聞きし、たくさん刺激を受けた第5分科会となった。

2日目の全体会では、千葉県立八千代高等学校(鼓部)へ書道部によるハフオーマンズと、放送作家の鈴木おさむ氏による「鈴木おさむ流○○のカタチ」についての記念講演を聴講した。今回のテーマである「Re:○○」にふさわしく、現在の放送作家を一度やめて、今春より新しいことにチャレンジする姿を息子に見てもおさむ流「家族のカタチ」となる。

第71回日本PTA 全国研究大会 広島大会

変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！
～見つけ 考え 変わろうや ぶち楽しいで!!～広島から全国へ

令和5年8月25日、26日に広島県にて第71回日本PTA全国研究大会が開催され、第1分科会から第6分科会、特別第1分科会、第2分科会が行われた。

さいたま市PTA協議会では、安芸府中生涯学習センターくすのきプラザで行われた第1分科会、リーガロイヤルホテル広島で行われた第3分科会、広島ガーデンパレスで行われた第4分科会と、ホテルグランヴィア広島で行われた特別第2分科会に参加した。

第3分科会研究課題の「学校教育と地域の連携をどう進めていくか」について、広島修道大学山川肖美教授は、地域と学校をつなぐシビックプライドのすばらしさの講演をいただいた。また、コミュニティスクールで大切な、学校・地域・保護者が子どもを担いだ騎馬戦であり、同じ目線でゴールを目指すことが重要であるとの実践発表もあった。

第4分科会研究課題の「子どものかけがえのない命と尊厳を守る」について、ジャーナリスト石川結貴氏は、困っている子どもが見えづらい時代。目の前にいる全ての子どもに対して、声がけしてほしいと投げかける。

2日目の記念講演も終え、社会全体の環境が大きく変化する時代を担っていく子どもたちが、変化に向き合っていく子どもたちが、変化に向ける役割は私たち大人であり、PTA自身が学びの変革をし、家庭・学校・地域が協力し合い、未来ある子どもたちのためにできることを行う重要性を改めて感じた。



さいたま市PTA協議会とは

今年度、さいたま市PTA協議会(以下、「市P協」といいます)の理事に携わって感じたことは、市P協に在籍している単会が、児童・生徒たちのための「活動」を大切に、「まなび」も大切にしている人たちの集まりだということです。

市P協内で発覚した「不明瞭な取引及び会計処理」の件で、市内10区が様々な対応をした令和5年度でした。歩みをとめないで活動を続けるのは、今、私たちに求められているのが、歩みをとめることではなく、二度と同じようなことが起らない体制・制度の構築、なのではないかと思えます。そして、今一度、市P協本来の活動をするために見直しをし、10区全体でできる活動を最大限の力(スケールメリット)にして活かし、児童・生徒のために、「地域×学校×家庭」とをつなぐPTA活動を展開していくことが課せられた使命だと思えます。

そんな大人の踏ん張る姿を児童・生徒にも感じ取ってもらえれば励みに思います。健全な歩みを進めるために、日々、市P協の正副会長をはじめ、常任理事、理事のメンバー、時には単会の会長へも情報の共有を図り、意見交換をし、慎重に、丁寧に、時にはスピーディな対応を心がけております。会員の皆様にも、この現状を御理解いただき、そして、見守ってください、ご自身のできる活動に参加し、一緒に盛り上げてくださることを願っています。

また、今年度、広報情報委員会では、この広報紙で少しでも多くの会員の皆様に、市P協の活動と、各校の魅力あふれる活動をお伝えできればと思います。取材を重ね、発行をしています。今号と6月末に発行予定の広報紙をぜひ、ご一読いただければ幸いです。

今後の活動としては、「個人情報漏洩保険」の制度設計と加入、「三行詩」、「広報紙コンクール」、などは、独自事業としての展開、関東ブロック大会などでの研究発表については、「役員セミナー」の拡大版として、市内での研究発表を行う方向で調整しています。各校PTA支援アプリ「がくぷり」を割引料金で導入できるようにし、市P協と各校PTA間の情報共有に「Kintone」を取り入れるなど、事務局の事務効率も併せて進めています。その他にも盛りだくさんの改革を検討中、署名活動、支援金募金活動など、柔軟に子どもたちのための活動に取り組みんでいます。市P協のホームページも積極的に更新し、情報の共有を図っています。新市P協の活動に参画し盛り上げてくださる皆様をお待ちしております。

【さいたま市教育委員会との懇話会にて】
(市教委 配布文書より)

学校とPTAがPTA活動の重要性や魅力を発信するために共有していただきたい内容(2つ)

- ・学校とPTAの連携による保護者からの多種多様な支援活動により、子どもたちの安心・安全な教育環境が整えられるなど、PTA活動が各学校の教育水準の向上に密接につながっているということ。
- ・子どもたちの教育は、学校教育だけではなく、家庭教育との連携で成り立っているため、PTA活動を通して、保護者同士が子育ての楽しみや不安や悩みなどを共有したり、相互に学び・高めあったりすることが家庭教育の向上につながり、ひいては子どもの健全な成長に大きく影響するということ。

さいたま市PTA協議会 「児童・生徒ワイド補償制度(こども総合保険+自転車総合保険)」

- 第一次締切日：3月27日 補償期間 2024年4月1日～2025年4月1日
- 第二次締切日：4月19日 補償期間 2024年4月25日～2025年4月1日

本広告は制度の概要のみを記載したものです。ご加入に際しては重要事項説明書をよくお読みください。不明な点等がある場合には代理店までお問い合わせください。

埼玉県自転車条例
さいたま市自転車条例
に対応しています!

団体割引等適用により
保険料が割安!

自転車事故等による損害賠償責任も 無制限で補償

※ご家族全員が対象 ※国外は3億円まで補償となります。

示談交渉サービス*付き!
*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母親に約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)

ケガの補償 24時間補償で安心!

- ◆学校内でのケガはもちろん、休日も含め24時間ケガを補償!
- ◆地震等によるケガも補償!
- ◆細菌性食中毒、ウイルス性食中毒や熱中症による死亡・後遺障害・入院・手術・通院も補償!

扶養者の方が事故で万一の際に 育英費用を補償

高校3年間と大学等の合計で約943万円の教育費がかかります!

出典:株式会社日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果」(令和3年度)

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットをご確認ください。

取扱代理店・扱者
AIGパートナーズ株式会社
さいたま支店
〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL 0120-991-341(通話料無料)
(受付時間:9:00～17:00 土、日、祝日、年末年始を除く)

《募集締切日》
第一次締切日：3月27日 投函締切
補償期間 2024年4月1日～2025年4月1日
第二次締切日：4月19日 投函締切
補償期間 2024年4月25日～2025年4月1日
詳しくはパンフレット等をご確認いただくか、取扱代理店・扱者までお問い合わせください。

《引受保険会社》
【幹事会社】 **AIG損害保険株式会社**
担当支店：埼玉支店
〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL:048-641-4050
【非幹事会社】 東京海上日動火災保険株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
S-240428(2025-01)

さいたま市PTA協議会 令和5年度交流会
 ～心のつながりWellbeing(幸福)を目指して～

令和5年10月23日(月)、浦和コミュニティセンター多目的ホールにて、さいたま市PTA協議会令和5年度交流会が開催され、さいたま市教育委員会、さいたま市内各小中学校のPTA会長と、さいたま市PTA協議会役員が多数参加した。

例年、さいたま市PTA協議会は、さいたま市教育委員会の方々と交流の機会を設け、各PTAが抱えている事柄や率直な意見など情報交換を行っている。今回は、全19テーブルに分かれそれぞれグループディスカッションをメインとし、例年以上に白熱とした意見交換の場となった。

今回の対話のテーマは、これからのPTAと教育委員会の連携について、をテーマにそれぞれの要望や疑問などを出し合い、両者で連携できることを各グループで話し合った。

中でも一番多く出た意見として、やはり保護者と学校、教職員が協力すること。子どもを中心(真ん中)に置き、保護者と学校がそれぞれの意見を出し合い、それができていることを立場の違う双方が協力し合うことで、お互いをより理解し子どもたちの健全育成ができる。またPTAとして校長としっかり連携し、PTAの要望を伝え、教育委員会からの情報もPTAへ発信し問題解決につなげるため、情報共有の大切さについても多く聞かれた。

また、コミュニティスクールに子どもたちや教育委員会の方にも参加してもらい、保護者と学校だけでは出てこない視点での意見を取り入れることにより、問題の共有ができ、解決に繋がっていくのではないかと、新しい意見もでた。少数意見の中には、



見沼 MINUMA 区
 熱気球搭乗体験
 ～体験の風を起こそう！～

さいたま市見沼区内の学校では、こ数年、子どもゆめ基金を利用した熱気球搭乗体験・プログラム企画を行っている。子どもゆめ基金とは、子どもの体験活動などへの助成を行う機関で、誰でも申請することができる。

今回は、11月23日(木)に実際に熱気球搭乗体験を行った東宮下小を紹介する。当日は空がまだ暗い早朝から、PTAの保護者や見沼区PTA連合会、子どもたち、地域の方々が集まり、竹とんぼを飛ばす企画と一緒に気球の知識や危険を学び、その後全員で気球を広げ、準備にとりかかる。グラウンドに大きく広げたバルーンに少しずつ空気が入り、子どもたちはもちろん、目の前で広がる様子に大人も興奮した瞬間だった。5〜6人ずつ順番に搭乗し、ほんの5分くらいの搭乗時間だったが4階くらいの高さまで上がった気球から見えた富士山がとてもまぶしく清々しい高揚感だった。

その他見沼区内では、片柳小・大谷小でも同様の企画をし、ちょうど風が強く吹き実際の搭乗はできなかったが、校庭でのバーナー体験や体育館で気球を広げて中に入ったり、和紙の気球を飛ばしたり、ストロー飛行機とコラボレーションしたりと、様々な体験を行い子どもたちのたくさん笑顔が見られた体験となった。

今後、様々な体験の風を起こすため、見沼区PTA連合会は子どもたちのための活動を続けていく。



次のような意見もでた。教職員と保護者という関係だけでなく、ICT関係に強い保護者には、授業でのICT活用についてを議論する。また、心理カウンセリングを専門とする保護者が悩みを抱えた教職員の相談にのるなど特定の専門分野の資格を有する保護者と、異業種」という立場で交流をもつことも必要ではないかと、踏み込んだ意見も聞くことができた。その他、不登校児童生徒への対策として、それぞれが話し合い見守っていく姿勢が大切であると意見がでた。後方支援や親と子の関係性も重要であり、時代・世代・環境により違いはあるが、保護者・学校・教育委員会がフェアに連携を図っていく必要がある。また、寄付金の取り扱いや公会計化の進め方などについても質問がでたグループもあった。

今回の交流会で感じたことは、保護者と学校は明確に別組織であると理解したうえで、お互いの活動を理解する場を設けて尊重し合い、連携して取り組むことが重要である。いきなり大きいことはできない。しかし、小さいことから始めてみて、だめなら変える。これを繰り返しながら持続可能な活動をしていくことが重要である。そして、子どもたちのために同じ方向を向いて、笑顔あふれるより良い学校を目指して作っていくことが大切であると強く感じた。

最後に、今回の交流会時に、教育委員会の方からあるお話を聞いたので紹介する。館岩自然の教室で子どもたちが岩魚の串打ちに使用する竹串を北区PTA連合会が手作りをしている。8月に日進で行われている七夕祭り、商店街に飾られている竹を北区のPTA会長が集まり、すべて手作業で竹串にして館岩へ持参し使用している。子どもたちのためのこの活動に対して、教育委員会の方からお礼の言葉をいただいた。これからも子どもたちのために作り続けてほしいと願うばかりである。



西 NISHI 区
 指扇小学校創立150周年
 ～体験の風を起こそう！～

令和5年11月7日(火)、創立150周年を迎えた西区にある指扇小にて、「光のサーカス」のイベント鑑賞が開催された。

コロナ禍以降初となる800名を超える全校児童と一緒に体育館で鑑賞したこのイベント。光の最先端技術を用いたLEDパフォーマンスを行う団体による光のサーカス、イルミナ、という演出で、体育館が暗くなった瞬間から大きな歓声が上がった。50分間の演目の間終始テンションMAXな子どもたちにとっても思い出深い楽しい一時となった。

また鑑賞後、6年生代表が、「お礼の言葉」を述べたが、堂々としたあいさつがとても素晴らしく、校長先生や実行委員から驚きの声があがった。

今回の周年事業のイベントとして開催に至った経緯だが、近隣校での実施を聞き、子どもたちがとても喜んでくれたことから開催実現となった。耳にしていたとおり本当に子どもたちの「楽しい」という素直な反応をみることで、月城実行委員長や木本PTA会長にとっても開催してよかった！と心から思えるイベントとなった。

また、イベントの費用は、周年事業積立金である資源回収の収益を有効活用している。



令和5年度さいたま市優良PTA団体等に係る表彰式及び市長表敬訪問

さいたま市優良PTA団体表彰受賞団体

日時:令和5年12月25日午後2時00分
 場所:さいたま市役所 2階特別会議室

さいたま市立上小小学校PTA
 さいたま市立片柳中学校PTA
 さいたま市立見沼小学校PTA
 さいたま市立大谷口小学校保護者と教職員の会
 さいたま市立片柳小学校PTA

【個人】PTA活動振興功労者賞
 宮澤 隆仁氏(蓮沼小)
 溝口 景子氏(与野南中) ~さいたま市 PTA 協議会~

令和5年度日本PTA年次表彰 第45回全国小・中学校PTA広報紙コンクール表彰

日本PTA年次表彰

令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰

- さいたま市立上小小学校 PTA
- さいたま市立片柳中学校 PTA

令和5年度 PTA 活動振興功労者賞

溝口 景子氏(与野南中)
 ~さいたま市 PTA 協議会~

宮澤 隆仁氏(蓮沼小)

令和5年度公益社団法人 日本 PTA 全国協議会会長表彰(団体)

- さいたま市立見沼小学校 PTA
- さいたま市立片柳小学校 PTA

第45回全国小・中学校PTA広報紙コンクール

令和5年度公益社団法人 日本 PTA 全国協議会会長表彰(個人)

鈴木 昇氏(常盤小) 川田 倫世氏(土呂中)
 内田 宜宏氏(美園南中)

令和5年度公益社団法人 日本 PTA 全国協議会会長表彰(特別)

中村 学氏(中島小) 久下 真央氏(指扇北小)
 小野 雄大氏(大宮小)

<小学校の部>【佳作】
 ・さいたま市立上落合小学校PTA
 ・さいたま市立仲町小学校PTA

<中学校の部>【佳作】
 ・さいたま市立上大久保中学校PTA
 ・埼玉大学教育学部附属中学校 父母と教師の会



三室小学校 創立150周年記念式典

緑区では、11月24日に**三室小**にて創立150周年記念式典が執り行われ、井上校長先生・石関PTA会長にお話しを伺った。

■井上校長先生

「本校は明治6年に開校し、昨年創立150周年を迎えました。歴代のPTA会長を中心とした実行委員とPTA役員の方々のご協力により、バザー、航空写真、学校美化活動、バルーンリリース、タイムカプセルオープン、記念式典と様々な記念行事を実施することができました。特に11月に行われた記念式典では、三室の歴史を振り返る舞台発表やさいたま市消防音楽隊と本校金管バンドとの合同演奏など、今の三室小の子どもたちが生き生きと活動する姿に、多くの御来賓、保護者、地域の方々からお褒めの言葉を頂き感無量でした。式典の最後に全員で合唱した150周年記念の歌「心のふるさと」。この歌が子どもたちの愛唱歌として10年、20年、50年先までも歌い継がれていくことを期待すると共に、三室小学校が児童・保護者・卒業生、そして三室小を見守り支えてくださっている全ての方々の「心のふるさと」であり続けるよう心より祈念いたします。」



る過程は取り扱わない」という「はじめ規定」があるため学校では教育されない性教育を「親は子どもにどんな言葉と気持ちと温度で伝えるのか」を講演いただいた。親なら誰でも悩む家庭での性教育。正面から子どもに伝えるには、親としてためらってしまう性教育。科学的に事実を年齢に合わせた言葉で伝える大切さや、自分自身の体の作りを知るからこそ、他人を大切にできる大人に成長すること。成長段階に合わせた心と身体の変化を子どもたちが一人で悩まずにいられるように、専門家である助産師さんから子どもたちに伝えてもらえる必要性も感じた講演だった。子どもたちに寄り添う大きな大人の輪が広がってほしいと思う。



エコでサステイナブルな 制服リユース活動

SDGsという言葉も一般化してきた昨今、PTAの活動として何ができるかと考えた時に、制服のリユース活動があると知り**木崎中**と**南浦和中**のPTAに話を聞いた。

その活動はいつ、どのようなきっかけで始めたのか？**木崎中**では古く資料を遡ってみても、いつ始まったのかも分からないくらい前から活動のようである。きっかけとしては、当初保護者同士で部活内の先輩や友達の兄弟が卒業する際に、制服のサイズが合わなくなった後輩へ譲渡していたという流れがあり、成長盛りの子どもたちへもっと広く使わなくなった制服を



■石関PTA会長

「2年前から150周年実行委員会を立ち上げ、記念歌の作成や記念バザー、30年前のタイムカプセル開封イベントやバルーンリリースといった事業を経て記念式典を行いました。私自身の母校であり、先祖7代に亘って通う三室小学校の記念すべき年にPTA会長の職を務められたことに感謝するとともに、式典では「150年という歴史は他ならぬ三室の人々が紡いだ営みそのものであり、皆さんにとって身近で繋がりが合ったものであること」を児童に伝えました。」



美園北小学校 『植栽ボランティアを開催』

美園北小は開校5年目を迎え、全校生徒数が約1200名となるマンモス校となっている。

学校、先生、生徒、保護者が一丸となり、より良い学校生活を送れるよう、歴史を刻んでいると伺いました。

その中の行事の一環で、『植栽ボランティア』が先日行われた模様。保護者の方々の言葉として「普段お花を植える機会がないので、やってみよう。」「減多にない機会だ」と、声が多数あったとのこと。普段はなかなか体験できない作業ということで、今回は約30名の保護者の方々とバンジーを300株植えた。「数が多いので時間がかかると思ったが、作業してみると夢中に植栽を行い、あつという間にすべての株が植わった。」と保護者から安堵の声。当初1時間を予定しておりましたが、作業時間30分で完了したとのこと嬉しさに、作業中に教室から子どもたちが駆け寄り、「ありがとうございますー!」「お花が咲くのが楽しみですー!」と叫びに来てくれたそうです。インタビューアールとしても、とても嬉しい気持ちになりました。

「学校や子どもたちの授業参観とは異なる様子が見られ、とても新鮮



活用してもらいたいという願いから制服のリユース活動が始まったとのこと。現在は年2回の譲渡会形式で行われており、必要な人が無料で持ち帰ることが可能だ。

一方**南浦和中**では細かい記録が残っていたようで、昭和60年(1985年)の事業計画からあり、昭和61年度の売り上げは22,210円であったとのこと。昔はバザーを行っていた時代もあり、その中に制服もあったそう。毎年しっかりと売上がありPTA活動の費用に活かされている。保護者会や学校説明会等のタイミングで年3回程度販売している他、連絡をすればPTA事務がいる時に随時購入することができるそう。

両校ともに、保護者からの評判はとても良いそうで、子どもの成長は喜ばしい反面、制服は高価であるため、なかなか新しい物に買い換えるのが難しいが、リユース品があることで、気にせずその時の子どもに合ったサイズの制服を選ぶことができるとのことだった。

そんな制服リユースだが、南浦和中では課題も抱えており、特に品目を指定して回収している訳ではないので、女子の制服の在庫が増えやすい傾向があり、保管場所も必要となる。また、購入したけれどサイズが合わなかった等の交換には未対応で、対応したいが現状そこまで対応し切れない状態とのことだ。

サステイナブルな活動をしていく上で、保護者からの需要と供給のバランスを上手く取り、無理のない範囲で期待に応え続けていくことがこれからも求められるのだから。



子どもの進路のために できること

◆(南区)岸中の取組み

令和5年度PTA高校進路学習説明会を二部構成で開催。
・進路指導担当教諭より、
埼玉の高校入試制度や仕組みについての説明

さを感じられました」と感想をいただいた。土と太陽の光、水と栄養。その他にも、保護者の皆さまと、学校に通う子ども達の気持ちや思いが重なり、いつも以上にキレイに咲いてくれることで、美園北小学校に来校された方が「キレイな校庭だな」と思ってもらえるような、鮮やかな開花を願うばかりです。

前例の無い学校、卒業生の保護者もいない、PTA活動も始まったばかり、真似をする手本が無い中で、この5年間試行錯誤の連続と伺いました。

一つ一つのイベントが、これからの美園北小を作っていく1ページずつ歴史となり、後世に語り継がれるような行事を行っていかれたら幸いである。



子どもに寄り添う活動 〜広がる輪・親が学ぶ輪〜

第二東中では、生理用品をトイレに設置し2年目を迎えた。全ての個室トイレ36か所には生理用品が設置されており、学校で初潮を迎えた、突然の生理が始まった、生理用品を取り出しにくい時も、思春期の子どもたちがプライベートスペースの中で解決できる環境が整備されている。毎月250個の生理用品が使用され、子どもたちにとって必要な高さを感じる。生理用品の補充は、「思いやり隊」という子どもたちの支えになりたいボランティア保護者とトイレ清掃時に子どもたち自身が補充を行なっている。生理用品は「二東にサンタがやってきたプロジェクト企画」を年1回開催し、保護者から2000個以上の生理用品が寄付され、子どもたちのために使われている。生理用品設置の取り組みは、市内のPTAに普及し始め、区を越えて同じ想いのPTA同士が繋がりに「子どもたちに寄り添う輪」が広がりはじめた。

また、大宮区・見沼区の6校(大宮小・大宮東小・芝川小・海老沼小・三橋中・第二東中)合同共催講演会として、11月25日(土)保護者向けの性教育講演会を開催した。「生と性まず大人が学ぼう」信頼される親になるために「をテーマに、助産師 田川智美先生をお迎えし、日本における性教育の現状「人の受精から妊娠に至るまで」を学んだ。

「子どものウェルビーイングの促進について」
大分大学福祉健康科学部相澤仁教授講演
こどもも大綱が目指す「こどもまんが社会」とはこどもが健全な状態であり、人権や自己実現が尊重、保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態(ウェルビーイング)でなければならぬ。その実現には、こども期に必要な体験をさせ、適切な親の関与と問題への対応を通じて、子どもが意見表明力、自己決断・決定力、自己肯定感などを形成することができ、豊かな人間性を形成できるということとを学んだ。



◆(北・見沼区)区を越えた中学校PTA有志での取組み 2回目となる「公立高等学校合同説明会2023」を「県立大宮工業高校」で開催。

・(構成)全体説明会各校15分、各教室をブースにし、個別相談会の実施。
・(参加)県内公立高校18校、北区・見沼区中学生(全年)とその保護者約800組
アンケートの回答では、高校によつては、高校生が直接説明・相談をうけてくれ、生の声が聞けて良かった、1年生から参加でき高校受験を意識した取り組みができる、全体説明会で情報の取得が一度にできるのは有難い、高校の先生の応援してくださる言葉が心強かったなどがあがった。リアル開催は、参加していただけた生徒、保護者、そして高校側にとつても有意義な時間だったと感じているとのことだった。

区連を越え、PTA有志での開催は、さいたま市PTA協議会に所属しているからこそその強みを活かし、「生徒たちのために」を優先し、区をまたいだ活動として協力して取り組んでいた。





コロナ禍からの復活 さまざまな取組事例

コロナ禍からの復活、実施予定のPTA活動について3校から取材してきた。各校様々な取り組みをされており、示唆に富む事例を紹介する。

最初に、今年度10月に仲本祭を開催した浦和区**仲本小**を紹介する。仲本祭はコロナ禍前には地域の人々も出入り自由で楽しめる形式で開催していたが、コロナ禍で2回中止に追い込まれた。昨年度は規模を大幅に縮小し、児童だけを対象にO×Kイズ大会を実施。全校児童を2グループに分け、飲食なし・二部制・校庭での開催にすることで、密になることを避ける工夫をした。今年度は若干規模を拡大し多くの児童に参加してもらえたが、規模的にはちょうど良いと感じているとのこと。共働き家庭が増えているため、PTA本部と委員によるイベント準備の負担を軽減できるよう、来年度は一部出店を委託する形も検討している。子どもたちの楽しさを追求しつつも、イベントの形式や内容を柔軟に変える必要性を感じ、新たなアイデアを模索している様子が伝わってきた。

次に紹介する岩槻区**和土小**では、コロナ禍で中断されていた和土フェスを再開すべく、今年度の150周年を機に来年度以降新しいイベントの検討を行っている。コロナが小学生に与える影響や学校教育の変化に注目し、体験型イベントの重要性を強調していた。具体的な提案として、科学の実験や経営ゲームを通じた体験活動を挙げた。子どもたちに疑問を持たせ、自分で考える力を育むことが重要であり、今回の企画から子どもたちに体験を通して学ぶ場を提供し、今後も地域特有の雰囲気や感覚を生かしたイベントを検討していきたいとのこと。将来において児童数が限られ、PTAメンバーも少ないことから、イベントの企画や運営に工夫が必要であり、また地域の協力や近隣校とのネットワークの活用も考える必要性があると課題も抱えていた。その様ななかでも新しい時代を、やり直す

桜 SAKURA おやじの会の作り方 ～大久保東小～

学校によってあったりなかったりするおやじの会。今回は「おやじの会の作り方」取材した。
取材させて頂いたのは桜区**大久保東小**おやじの会初代会長の山崎栄慈さん。始めようと思ったきっかけは9年前ご自身がPTA会長になった時、献身的にPTA活動をやるママさんたちの姿や運動会の前日に降った雨が残るグラウンドを早朝から黙々と整備する先生方の姿を目の当たりにした時だった。一緒にグラウンド整備を手伝っていると校長先生がポツリ「こう言う時おやじの会があると助かるんですよね」と。「先生どうやってたらおやじの会作れますか？」と尋ねると「飲み会ですよ！」とアドバイスを受ける。それを真に受け、それから自分にもできるかもとなり次のPTAのイベントだったバザーの後に飲み会を企画、まずは本部役員のママさんに旦那さんを紹介してもらい近くの居酒屋を予約。紹介してもらったものの何人来るかもはつきりしなかったが蓋を開ければ10名が参加、LINEグループを作りまた飲む約束をする。おやじの会がスタートした瞬間だった。
PTAとの絡みとしては「校内の除草」から「やきいも会」と幅広い。あくまで任意の団体である為、除草作業の時はPTAと共催にしたりやきいも会は土曜チャレンジスクールとの共催で講師として行うことで保険を適用できることになった配慮をしている。やって良かった



意味も含めて、まずはスタートを切ることが重要であると考えさせられた。

最後に紹介するのは、バザーに代わるイベントを開催している西区**植水小**。昨年度はクイズラリーを開催し、特製ステッカーを配布して子どもたちが学校の様々な場所を巡る形で楽しめるようにした。苦勞しながらも児童たちは楽しんでくれ、資金の面でもバザーの必要性は重要では無く代わりにイベント系の取り組みを強化する方針を示している。今年度はクイズや地域の方の得意な折り紙でのマグネット釣りなどのイベントを11月に開催した。会場の体育館ではマリオの世界を再現した装飾もあり、子どもたちは楽しんでた様子だった。過去の経験ではYouTubeを活用して地区内のヒヤリハット地点や公園を紹介する動画を制作したとのこと。この柔軟なアプローチはコロナ禍でも継続され、PTAではミニチュアルにとらわれずメンバーの得意分野に応じて活動を進め、活動内容やイベントが変化していく様子がうかがえる。取材時には来年度に向けた検討や改善点にも言及しており、PTAの柔軟性や活動の多様性を重視しているように感じられた。



植水小学校イベントの様子

中央 CHUOH すずや祭 ～鈴谷小～

すずや祭を前日に迎え、子どもたちの歓喜を心待ちにした担当のお二人にお話を伺った。
まず、すずや祭とは、さいたま市中央区、校舎の西側を埼京線が走り、春には東側に流れる鴻沼排水路が桜色に染まる**鈴谷小**を会場にコロナが蔓延するまで毎年行われてきた歴史あるお祭り。今年11月25日に4年ぶりに開催、スタンブラーやストラックアウト、スラ

事のひとつは山崎さんの後のPTA会長は3代全員おやじの会のメンバー出身であることが挙げられる。
モットーは「家庭第一」「仕事第一」。来られる時だけ来てくださいますのスタンスだ。毎年度ごとに退会希望は遠慮なく連絡を入れる配慮もしているようだが実際の退会者はほとんどいないと言った。
取材を通しておやじの会には多くの魅力を感じました。皆さんの学校でもおやじの会を立ち上げるのはいかがですか？

西 NISHI おやじの会の取組 ～馬宮東小～

馬宮東小ではおやじの会が中心となりコロナ禍以前は例年夏に行われていた水かけ祭りを8月に再開した。驚いたのは数年ぶりの開催にもかかわらず馬宮東小を母校とする中学生がボランティアで60人も集まったことだ。PTA会長によると地元との繋がりが強い土地で同窓会のようなノリだったのではないかとのことだった。他にも、防災訓練を兼ねた体育館での一泊学校お泊り会や肝試しなど子どもたちを楽しませる多くのイベントがこれから復活するのだという。

おやじの会の歴史は平成16年度にまで遡る。発足当時からお泊り会や餅つき、学校手伝いなど様々な活動を行い、平成19年には埼玉新聞の紙面にも掲載された。現在の馬宮東小PTA会長はおやじの会にも所属している。会長によると、おやじの会での活動はPTAをよりよくしていくための試行の場でもあるとのこと。目的は似ているもののPTAとは異なるおやじの会。比較的自由に発想し行動できるおやじの会で活動を行うことが、PTA活動そのものを客観的に俯瞰することに役に立つのだという。最近では、PTA活動には保護者自身も楽しめる活動



「令和6年能登半島地震 緊急支援募金」

2/16 最終集計 1,472,171円

「珠州市・輪島市・能登町」の3市町の子どもたちに、より近いところへ届くように、2月末日を予定とし、現地との調整をしております。皆様の御協力に感謝しております。ありがとうございました。



が必要ではないかという、新たな視点を導くことができたようだ。PTAでもいろいろチャレンジをしたいが委縮してしまうことが多い中「前向きな失敗」はもっとするべきだと熱く語る様子が印象的であった。
最後に今後やってみたい企画を聞いたところ、「キャンプファイヤー」だと楽しそうに話をしてくれた。来年度以降も馬宮東小の子どもたちに素敵な思い出がでさそうである。



コロナ禍を経験しPTA活動を縮小したり、オンラインが主流になり、時間を有効に使えるようになった。ただ話を聞けば聴くほど、コミュニケーションを大切にしたい。子どもたちが楽しそうなお祭りが遅く、羨ましく思えてきた。当日お邪魔することは叶わなかったが、今日の笑顔を見ればきつと子どもたちの笑顔に包まれて微笑むお二人が見える気がした。



すずや祭パンフレット